

マナちゃんかわら版

マナちゃん&ユウくんの突撃インタビュー

造形作家
はっとりみどり先生



「ひとつの高価な作品を作るより、たくさんの方が気軽に手に取り、楽しんでいただけるようなものを作りたいと思います。」

そのキュートな作品の裏に隠された優しい思いと、仲間と切磋琢磨しながらより良い作品作りをめざして活動されているはっとりみどり先生。そんな愛溢れるはっとり先生に、マナちゃん&ユウくんが突撃インタビュー！

マナ いつもかわいいさくひんいっぱいだよ♡マナちゃんだいすきだよ♡
ユウ 最初に手芸をされたんはいつだよ。

先生 初めての手芸は小学校三年生の時、夏休みに手芸店で見つけたピンク色のエコアンダリヤの作品見本が可愛くて「本当にこんなステキなバッグが作れるのかしら」と、手芸店に通うようになりました。初めての作品はエコアンダリヤのバッグです。そこがスタート。バッグをみんなにほめられて、すっかり手芸にはまっています。
ユウ エコアンダリヤがきっかけだったとは、驚きましたあ！
先生 わたし、もとは粘土の造形作家なんです。ものを作るのが好きだったので、美術大学の彫刻科に進みました。学校では、等身大の人物像とか、大きな彫刻を作っていたのですが、ふと子どものころに飼っていたうさぎを思い出して、大好きなうさぎを粘土で作ってみました。これを学園祭に出してみたら大好評！それを見た人の紹介で、うさぎの粘土作品を画廊に置いてもらえることになったんです。でも画廊に置いていただくことになると、それなりの値段をつけていただくことになりすよね。ある日、画廊の方から、いくつかあるうさぎのひとつを、男の子が何度も見に来てくれていると聞きまじった。ほどなくして、男の子がお母さんといっしょに来て買ってくださったとのこと。わたしは、嬉しいと同時になんだか申し訳ないような気持ちになってしまった。その時に思いました。「もっと子どもでも買いたやすい価格で、たくさんの人に作品が届けられるといいなあ」と。
マナ おはなしきいてじんわりしたんだよ。



たうこんな素敵な作品はできないけれど、たくさんの方の力が集結して、その作品ごとにプロ同士のせめぎあいがあったとても楽しいんです。

ユウ フェルト羊毛とは、どうやって出会ったんですか？

先生 こつこつと仕事を続けているうちに、絵本や書籍の表紙に作品を使っていたけるようになって。やさしい感じを出すために、まず粘土で骨格を作ってから、木目込み人形みたいにフリース布を貼っていく方法で人形を作っていました。でも粘土は乾かすのに時間がかかるでしょう。そんなときハマナカのフェルト羊毛という新しい手芸材料を知ったの。

ユウ フェルト羊毛ならふわふわしたやさしい感じが出せますし、時間もかかりませんなあ。

先生 そうなんです！そこからフェルト羊毛で造形をという依頼をたくさんいただくようになりました。ジオラマ（左上写真）は、背景から、登場する人や動物たちの衣装まで幅広い仕事が必要になります。このような作品では、人形の着物は、最初の作品からずっと一緒に仕事をしている衣装制作の方に人形から型紙を取って作ってもらっています。提灯は模型制作の方にお願ひして、原型から起こしてもらいました。屋台の看板の文字は仲間のデザイナーが作ってくれています。そうして出来上がったジオラマを編集者立会いのもと細かいチェックをしながらプロのカメラマンに撮影してもらいます。朝スタジオに入って、シャッターを押す頃にはもう夜になっていますが、いい写真が撮れてみんな喜び合う時が幸せです。わたしひとりだっ

マナ おにんぎょうからかたがみつくるの？

ユウ みなさんの想いが一つの作品に込められているとは、圧巻ですなあ。最後に、今後の目標はありますか？

先生 リーズナブルできれいな色がたくさん選べるアクリルに出会ってまた新しい仕事のスタイルができました。これが広まって、もっともっと素敵なものをお届けできたらいいなと思っています。

マナ マナちゃんもたくさんのおともだちにとどきたいんだよ。

ユウ 夢が広がる貴重なお話、ほんまおおきに。

これからフェルト羊毛やアクリル手芸を始めようと思っている方へ



講習会のお伝えしているのは、できれば良い素材からスタートしてほしいということです。廉価品もたくさんあるのですが、羊毛の絡まりが悪いことが多く、入り口でフェルト羊毛にこりてしまったというお話をよく伺います。ハマナカの商品は、とても研究されていて、プロフェッショナルの力から生み出された素材です。皆様には、まず、より良い素材に出会っていただけたらと願っています。